

●支援体制づくり

市民の学びを支援するため、行政全体で横断的に連携・協働する体制を構築します。

●行財政改革

本市を取り巻く財政状況が厳しさを増す中、生涯学習の推進にあたって、「選択と集中」を進めていく必要があります。市が行う必要性やサービス水準、効率的な運営等の視点を持ち、各事業の点検、評価、見直し、改善を進めながら計画を実行します。

3. 施策の柱と具体的な施策

施策の柱1 誰もが気軽に「学び」と「活動」に参加できる環境づくり

人生100年時代においては、すべての人が生涯を通じて自らの人生を設計し、学び続け、学んだことを活かして活動していくことが求められます。

また、すべての人が、それぞれのライフステージや多様性に応じた「学び」に参加できる環境づくりが求められます。

そのため、「学び」と「活動」の情報提供の拡充や「学び」と「活動」の場づくりなど、市民がいつでも・どこでも・何度でも自由に学んだり、活動したりすることのできる環境づくりを支援していきます。

具体的な施策1	「学び」と「活動」の情報提供の拡充
具体的な施策2	気軽に相談ができる体制づくり
具体的な施策3	多様な「学び」の機会の提供
具体的な施策4	「学び」と「活動」の場づくり

施策の柱2 「学び」と「活動」による人づくり

人々が社会生活を営む上で、取り組むべき現代的・社会的な課題は、社会環境の変化に伴い、多様で複雑化しています。今後、一人一人がこうした課題と向き合いながら、より豊かな人生を送ることのできる持続可能な社会づくりを進めていかなければなりません。特に地域においては、住民自らが地域づくりの担い手としてその運営に主体的に関わっていくことが求められています。

そのため、「学び」と「活動」の機会を充実させることにより、多様な課題を解決するための能力や技術が育まれた人材の発掘・育成に取り組めます。

学習することによって自らの心を豊かにし、個人の生きがいや生活に必要な知識、技術を習得するだけでなく、その学習成果を社会へ還元していくことは、学習者にとって大きな喜びにつながります。また、自らの学習成果が誰かの役に立つことでやりがいも増し、

さらなる学習意欲につながります。この「学びと活動を循環」させることのできる人づくりが求められます。

そのため、学習成果を活かしたい人や団体等とそれを求める人や団体等とのつなぎ役となる人材や地域にある多様な資源（NPO、ボランティアなど）を活かすことができる人材の発掘・育成に取り組みます。

具体的な施策1	「学び」と「活動」を通じた人材の発掘・育成
具体的な施策2	「学び」と「活動」をつなぐ人材の発掘・育成

施策の柱3 「学び」と「活動」によるつながりづくり

地域における人と人とのつながりの希薄化等により、近所付き合いが減るなど高齢者や困難を抱えた人が地域で孤立するという深刻な状況が生じる恐れがあります。

「学び」と「活動」の循環は、人と人とのつながりをつくり、信頼関係や結びつきを強めることにもなります。

そのため、「学び」と「活動」の場の提供を通して仲間づくりを支援します。

また、地域コミュニティを活性化させるため、地域文化や伝統行事・祭りなどを通じた人と人とのつながりから生まれる地域への愛着・誇りといったシビックプライドの醸成を図ります。

子どもの「生きる力」を育むには、友達同士の集団遊びや生活体験、自然体験、社会体験など地域を舞台にした多様な体験の充実が求められています。

また、家庭は、子どもが家族との愛情による絆を形成し、人に対する基本的な信頼感や倫理観、自立心などを身に付けていく場でもあります。

就労状況や家族形態の変化など家庭を取り巻く環境が大きく変わる中、不安や悩みを抱えながらも孤立することなく楽しく子育てができるよう、地域全体で子どもの育成を支える仕組みづくりが求められています。

そのため、家庭、地域それぞれの教育力を高めるとともに、相互の連携を強化し、家庭・地域・学校が一体となって子どもたちの発達・育成を促す環境づくりに取り組みます。

具体的な施策1	「学び」と「活動」による仲間づくり
具体的な施策2	つながりから生まれる地域への愛着・誇り
具体的な施策3	学校と家庭・地域がつながる教育力の向上

北九州市生涯学習推進計画《”学びと活動の環”推進プラン》の体系

計画の目標

市民が学び、しほい、まちは輝く。学びと活動の環を広げよう。

基本方針

- ①人生100年時代を豊かに生きるための生涯学習社会づくり
- ②「学び」と「活動」が循環する生涯学習社会づくり
- ③多様な主体のネットワークによる生涯学習社会づくり
- ④子どもの成長への関わりを通して「家庭」や「地域」の力が高まる生涯学習社会づくり

施策の柱

柱1

誰もが気軽に「学び」と「活動」に参加できる環境づくり

柱2

「学び」と「活動」による人づくり

柱3

「学び」と「活動」によるつながりづくり

施策の視点

- きっかけづくり
- 人づくり
- つながりづくり
- 地域づくり
- ネットワークづくり
- 多様性への対応
- 支援体制づくり
- 行財政改革



具体的な施策

取り組み

(1)「学び」と「活動」の情報提供の拡充	①「学び」と「活動」の一元的な情報提供 ②多様な媒体による情報提供
(2)気軽に相談ができる体制づくり	①「学び」の相談体制づくり
(3)多様な「学び」の機会の提供	①「学び」のきっかけづくり ②ライフステージや多様性に応じた学習機会の提供・充実 <<②-1 乳幼児期の生涯学習>> <<②-2 青少年期の生涯学習>> <<②-3 成人期の生涯学習>> <<②-4 高齢期の生涯学習>> <<②-5 障害のある人・外国人住民等への生涯学習>> ③現代的・社会的な課題の解決に向けた学習機会の提供・充実 <<③-1 人権教育の推進>> <<③-2 環境教育の推進>> <<③-3 男女共同参画社会の形成の推進>> <<③-4 子育て支援の推進>> <<③-5 超高齢社会対策の推進>> <<③-6 安全・安心対策の推進>> ④生涯学習実施機関のネットワークによる学習機会の充実
(4)「学び」と「活動」の場づくり	①学んだ成果を活かす仕組み ②生涯学習関連施設の整備
(1)「学び」と「活動」を通じた人材の発掘・育成	①地域ボランティアの発掘・育成 ②地域リーダーの発掘・育成
(2)「学び」と「活動」をつなぐ人材の発掘・育成	①「学び」と「活動」をコーディネートする人材の発掘・育成
(1)「学び」と「活動」による仲間づくり	①「学び」と「活動」をきっかけにした仲間づくり
(2)つながりから生まれる地域への愛着・誇り	①シビックプライドの醸成 (地域文化、生涯スポーツ) <<①-1 文化振興によるシビックプライドの醸成>> <<①-2 スポーツの振興によるシビックプライドの醸成>>
(3)学校と家庭・地域がつながる教育力の向上	①家庭教育支援の充実 ②家庭・地域・学校の連携促進 ③地域における子どもたちの発達・育成を促す環境づくりと体験活動の促進

4. 計画と SDGs の関係

(1) 北九州市の SDGs 達成に向けた取り組み

SDGs「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」は、2015年9月の国連サミットで採択されたもので、国連加盟193か国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた目標です。

17の大きな目標と、それらを達成するための具体的な169のターゲットで構成されています。

北九州市は、外務省より「環境・国際貢献をはじめとする取り組みはトップレベルの功績であり、他の自治体の手本になる」という講評をいただき2017年12月に、第1回「ジャパン SDGs アワード」の特別賞を受賞、さらにアジア地域で初となるOECDの「SDGs 推進に向けた世界のモデル都市」（2018年4月）、国の「SDGs 未来都市」（2018年6月）に選定されました。

北九州市では、SDGsの達成に向けて、『真の豊かさ』にあふれ、世界に貢献し、信頼される『グリーン成長都市』を目指すSDGs戦略（ビジョン）をもとに取り組みを進めています。

(2) 本計画と SDGs の 17 の目標との関係

SDGsにおいて、教育は目標4に位置付けられ「すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する（短縮標記：質の高い教育をみんなに）」とされています。

しかし、SDGsの目標は、それぞれが独立したものではなく、相互に関係し、時には相反する価値を追求することもあります。そのような中で教育もまた、独立した目標ではなく、むしろ、『教育が全てのSDGsの基礎』であるとともに、『全てのSDGsが教育に期待』しているとも、言われています。

そのため、目標4をベースとし、各柱の具体的な施策・取り組みにあった目標につなげ、本計画の取り組みを推進します。



首相官邸での表彰式（写真提供：内閣広報室）



共同記者会見

○参考：SDGs について

SDGs (持続可能な開発目標) ってなに？



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS Public Private ACTION for Partnership!!
～SDGsで日本を元気に、世界を元気に
その主役はあなたです!～

エスディージーズ
SDGs = SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
持続可能な 開発 目標

- ◆SDGsのSD (SUSTAINABLE DEVELOPMENT)とは、意識すると「子ども・孫などの世代に負担をかけずに、今の世代のニーズを満たす開発・発展」という意味です。
- ◆このような開発・発展を進めていくために、達成すべき具体的な目標として、上記のような「17のゴール」(=SDGs)が定められています。
- ◆これは、2015年の国際連合(国連)の総会で、すべての加盟国(193カ国)で取り組むこととされた、2030年までの「世界共通の目標」です。
- ◆日本においても、国全体で取り組むべき目標とされており、わたしたちのまち・北九州市でも、市民や企業、団体などが連携し、一丸となって取り組みが進められています。

【計画とSDGsの関係図】

	具体的な施策・取り組み	関連する主な目標（ゴール）
柱1 誰もが気軽に「学び」と「活動」に参加できる環境づくり	(1) 「学び」と「活動」の情報提供の拡充 ①「学び」と「活動」の一元的な情報提供 ②多様な媒体による情報提供	 
	(2) 気軽に相談ができる体制づくり ①「学び」の相談体制づくり	
	(3) 多様な「学び」の機会の提供 ①「学び」のきっかけづくり ②ライフステージや多様性に応じた学習機会の提供・充実 ③現代的・社会的な課題の解決に向けた学習機会の提供・充実 ④生涯学習実施機関のネットワークによる学習機会の充実	 
	(4) 「学び」と「活動」の場づくり ①学んだ成果を活かす仕組み ②生涯学習関連施設の整備	 

	具体的な施策・取り組み	関連する主な目標（ゴール）
柱2 「学び」と「活動」による人づくり	(1) 「学び」と「活動」を通じた人材の発掘・育成 ①地域ボランティアの発掘・育成 ②地域リーダーの発掘・育成	  
	(2) 「学び」と「活動」をつなぐ人材の発掘・育成 ①「学び」と「活動」をコーディネートする人材の発掘・育成	
柱3 「学び」と「活動」によるつながりづくり	(1) 「学び」と「活動」による仲間づくり ①「学び」と「活動」をきっかけにした仲間づくり	
	(2) つながりから生まれる地域への愛着・誇り ①シビックプライドの醸成（地域文化、生涯スポーツ）	 
	(3) 学校と家庭・地域がつながる教育力の向上 ①家庭教育支援の充実 ②家庭・地域・学校の連携促進 ③地域における子どもたちの発達・育成を促す環境づくりと体験活動の促進	

5. 指標等の設定

本計画を着実に推進し、進捗を管理するため、各施策に指標等を設定します。指標等は内容により2種類に区分し、市民意識や事業の進捗を指標等として設定します。

※各指標の項目及び目標値については、原則、今回設定されているものを使用しますが、今後、生涯学習を取り巻く社会状況の変化等が生じた場合は、必要に応じて見直しを行います。

指標等	内 容
指標	<ul style="list-style-type: none">●指標項目は、必要かつ適切なものを施策ごとに設定。●指標項目は、行政評価項目や他部局の計画の指標などを参考に設定（市民意識や事業の進捗など）。●令和7年度の目標を定め、目標に向け年度毎に参考値を定める。
モニタリング項目	<ul style="list-style-type: none">●施策に関連したデータ等でモニタリング（把握・確認）が必要なもの。●目標値等は定めない。

第4章 施策に関する具体的な取り組み

施策の柱1 誰もが気軽に「学び」と「活動」に参加できる環境づくり

■具体的な施策

- (1) 「学び」と「活動」の情報提供の拡充
- (2) 気軽に相談ができる体制づくり
- (3) 多様な「学び」の機会の提供
- (4) 「学び」と「活動」の場づくり

■指標等

◎指標

指標	現状値	目標
	令和元年度	令和7年度
生涯学習の情報が取得できている人の割合 《市政モニターアンケート》	37.2%	50%
過去1年間に学習活動をした人の割合 《市政モニターアンケート》	56.9%	70%
学習活動に満足している人の割合 《市政モニターアンケート》	88.5%	95%
生涯学習関連施設の利用者数 《北九州市調査》	13,964 千人	現状維持

◎モニタリング項目

○生涯学習という言葉を知っている人の割合
○まなびネットひまわりアクセス件数
○いきがい活動ステーションの利用者数
○生涯学習総合センター学習相談件数
○市民カレッジ受講者数及び受講者の満足度
○市立図書館（ひまわり文庫を除く）における市民一人当たりの貸出冊数
○障害者芸術祭作品展の出展数と障害者スポーツ教室・障害者スポーツ大会の参加者数

○東部・西部障害者福祉会館で行う障害のある人を対象にした講座の開催回数及び参加人数
○外国人が日本語や日本の生活習慣を学ぶための地域の日本語教室の開催箇所数
○生涯学習市民講座のうち「共生のまちづくり」を学習目標とした講座数
○北九州市立大学 i-Design コミュニティカレッジ各領域の履修生数
○「本市は生涯にわたって自由に学び、その成果を活かした活動を行う環境が整っていると感じる」と回答した人の割合
○人材バンク登録者数及び依頼件数
○人材マッチング事業実施件数

■取り組み

(1) 「学び」と「活動」の情報提供の拡充

① 「学び」と「活動」の一元的な情報提供

本市における、令和元年度の「生涯学習に関する市民意識調査(以下、「生涯学習意識調査」という)」の結果では、「生涯学習に関する情報を得ているか」の問いについて、十分に得ていない人が4割おり、「学んだ成果を地域活動や社会貢献に活かしたいか」の問いについて、学んだ成果を活動に活かしたいと考える人も4割います。

また、活動に関する情報をいつでも、どこでも、手軽に入手できる環境や、学んだ成果を活かしたいけれど、どうしていいかわからない人やなかなか活動へ踏み出せない人を、活動へとつなげるためのきっかけが求められています。

そのため、生涯学習に関する情報提供システムを充実させ、行政が主催する学習情報や、NPO、ボランティア団体等が実施する学習情報を集約して提供するとともに、新たに、行政やNPO、ボランティア団体等の活動情報も掲載し、「学び」と「活動」の情報が一元的に提供できるようにします。

<主な事業>

○生涯学習情報システム(まなびネットひまわり)

市内で開催される様々な講座に関する情報や豊富な知識・経験、優れた見識、技術をもち、その力を地域社会に役立てたいと考えている講師の情報などをホームページで一元的に提供しています。

[市民文化スポーツ局生涯学習課]

